

2011
3.11

東日本大震災 白石市の記録



東日本大震災 白石市の記録

発行 白石市

平成 26 年 3 月

〒989-0292 宮城県白石市大手町 1 番 1 号
復興対策室 TEL0224-22-1561



「東日本大震災 白石市の記録」発刊にあたって



白石市長
風間 康静

あの日の記憶を、次代につなげる記録へ

国内観測史上最大となるマグニチュード9.0を記録し、本市においても震度6弱の強烈な揺れに見舞われた平成23年3月11日の東日本大震災。市民4名の尊い命が失われ、多数の家屋や公共施設が損壊し、ライフラインも断絶するなど未曾有の大被害をもたらしました。

この震災により亡くなられた方々に、あらためて哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。

また、震災直後から県内はもとより全国の方々や自治体・企業・団体さらには海外などから、寄付金や支援物資の提供、人員の派遣など温かいご支援をいただくとともに、ボランティアの皆さまから大きなお力添えをいただき、あらためて深く感謝申し上げます。

本市では、地震発生後直ちに災害対策本部を設置し、安心・安全な市民生活の回復に努めたのはじめ、平成23年9月には「白石市東日本大震災復興計画」を策定し、一日も早い震災からの復旧・復興のため、全職員一丸となって取り組んできたところです。

震災から3年が経過した現在、多くの皆さまからのご支援により復旧も順調に進み、本市のシンボルである白石城や「全日本こけしコンクール」「しろいし蔵王高原マラソン」「鬼小十郎まつり」「白石市農業祭」など四季折々のイベントに多くの人々が訪れ、復興の大きな弾みとなっています。

このたび本市では、震災から3年を経て、復興計画における「復旧期」から「再生期・発展期」へと新たな段階を迎えたことを契機に、千年に一度といわれる震災の記憶を風化させることなく、長く後世に伝えることが必要と考え、「東日本大震災 白石市の記録」を発刊いたしました。この記録が、今後の災害対応における参考資料の一つになれば幸いです。

いまだ被災者の生活再建支援・放射能対策などの課題は山積しております。しかし、本市は復興からさらなる発展につなげるため、今後も市政運営の基本とする「共汗、共学、共生」の理念のもと、豊かな自然環境、歴史、伝統、生活文化などの地域資源を大いに活かし、「第五次白石市総合計画」に掲げる「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市」を目指してまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

平成26年3月

東日本大震災 白石市の記録 目次

市長あいさつ

目次	2
----	---

目で見える震災の記録（発生から復興まで）	4
----------------------	---

1 東日本大震災

東北地方太平洋沖地震の概要	15
東京電力福島第一原子力発電所事故の概要	15

2 白石市の被害状況

地震による市内の被害状況	17
原子力発電所事故による災害の影響	20

3 震災発生後の動き

災害対策本部の設置	23
対策本部からの情報発信	25
避難所の設置・運営	26
生活相談窓口	28
小中学校の休校など	29
主な行事の中止	29

4 応急対応の動き

ライフラインの被害と復旧	31
その他の応急対応	33

5 被災者対応・支援

被災者への支援	35
---------	----

6 原子力災害への対応

放射能対策室の設置	39
除染実施計画・実施状況	40
さまざまな放射能対策	43
放射能理解への活動	44
国・東京電力への要望・損害賠償請求	45
風評被害を乗り越えるための取り組み	46



7 関係機関・各団体の活動

公立刈田総合病院	49
消防団	50
自主防災組織・自治会・民生委員	51
白石市社会福祉協議会	51

8 歴史・文化を守る活動

白石城の被害と復旧	53
碧水園の被害と復旧	54
ホワイトキューブの被害と復旧	54
歴史資料の保全	55

9 応援・支援

災害協定を締結している自治体・団体・企業	57
姉妹都市・友好都市の応援・支援	58
各自治体などの応援・支援	58
企業・個人の応援・支援	59
震災後の新たな動き	60
白石すまいる大使・「戦国BASARA」の応援・支援	61

10 復旧・復興に向けて

東日本大震災復興計画策定の趣旨	63
復興計画の理念	63
復興計画の基本目標	63
復興計画の期間	63
【参考】復興計画策定までの主要経過	66
東日本大震災復興交付金事業一覧	66

【付記】

いま、未来の白石市民に伝えたいこと	68
復旧・復興へ	70

発生

2011.3.11 14時46分
東北地方太平洋沖地震 マグニチュード9.0



夕間が迫る中、ライフラインを断たれ、断続的に襲う余震におびえながら、多くの方々が避難所に避難しました。3月中旬とはいえ夜は氷点下まで気温が落ち込み、地震当日は毛布などの救援物資や暖房も少ない状況での生活となりました。



①道路に大きな被害を受けた白川内親地区 ②ブロック塀が倒れた市道南小路線 ③大きな被害を受けた館堀 ④地震で橋と道路に段差が生じ、車両通行止めとなったしらさぎ橋 ⑤天井が落下した市役所5階議場



①通行止めとなった市道コスモスライン ②屋根瓦が道路まで散乱した市道 南小路線 ③瓦や壁に被害を受けた白石城

平成23年3月11日、14時46分、携帯電話の緊急地震速報の警戒音がけたたましく鳴りました。2月末に設置したばかりの全国瞬時警報システム、通称J-ALERTの庁舎放送も「大地震です!」と重ねて警報。その直後、大きな揺れが始まったかと思っただ途端、今までに経験したことがない大きな横揺れが、いつまでもいつまでも続きました。

通行止めとなった市道コスモスライン

被災

死者/4名 負傷者/18名

住家被害/全壊・全焼:41棟・大規模半壊:83棟・半壊:483棟・一部損壊:2,171棟

緊迫

地震発生直後、災害対策本部を設置



①

余震がひどい中、平成23年3月11日、15時10分に災害対策本部を設置。防災計画では、市役所第3会議室に本部を設置することになっていましたが、余震が続く中で3階への設置は不可能と判断。当初設置した公用車庫から、市役所1階のロビーに災害対策本部の拠点を移しました。まずは物資ということで、備蓄していたものを集めると同時に、提携しているスーパーに連絡して避難所で必要となる物資を手配しました。



②

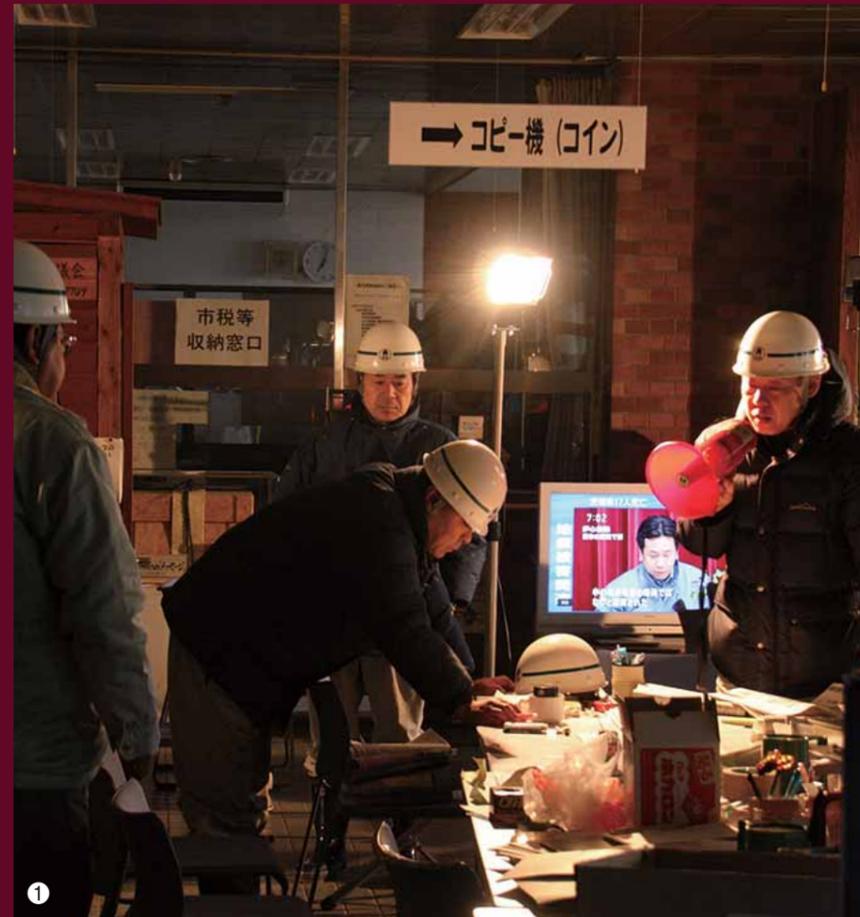


③



④

①②④災害対策本部の様子
情報の集約と共有を図り、さまざまな
緊急対応や各方面への応援要請など
を行った
③支援物資と寄付金を届けに訪れた長
野県上田市の石黒豊副市長



①

①避難所の担当者に当日の指示をする避難所担当課長（3月13日7時） ②自分の家を後回しにして「地域のために」と奔走した消防団員。初動調査や本部と地域のパイプ役として活躍した ③災害対策本部会議で被害状況を報告する白石市消防団の跡部敏団長（3月13日8時15分） ④避難所の福岡中学校で対応を打ち合わせする福岡沖自治会の皆さん ⑤支援に訪れたボランティア団体Scientology VOLUNTEER MINISTER（国際サイエントロジーボランティア災害救援チーム）のメンバー



②

地震から一夜明けると、被害の甚大さが次第に明らかになりました。昭和53年の宮城県沖地震でも地滑りがあった緑が丘地区は再び崩れ、城南・鷹巣地区とともに避難指示・避難勧告が出されました。至る所で道路が割れ、液状化でマンホールが隆起し、ブロック塀が倒れ、瓦が崩れ落ちました。

地震の後、消防団幹部は災害対策本部に常駐。防災無線で被害の状況の把握を8つの分団長に指示し、各分団が一般家屋の被害状況を目視で調査しました。



③



④



⑤

迅速

24時間体制による災害応急対応の開始

応急

ライフライン復旧への応急対応

本市では全世帯が停電。水道も約9,000世帯が断水するなど、ライフラインに大きな被害を受けました。市道は241カ所に陥没などの被害を受け通行止めを余儀なくされた箇所もありました。



①



②



③



④



⑤



⑥

①しらさぎ橋の応急復旧作業 ②給水車には長い行列 ③市道白石田中線の電気の復旧作業 ④液状化でマンホールが飛び出た越河地区農業集落排水地域 ⑤東町地内の道路被災状況 ⑥落石で通行止めとなった市道越河小原線の復旧作業



①

支援

救援物資から多様な人的支援まで

災害時応援協定を結んでいた北海道登別市と神奈川県海老名市に救援を依頼。海老名市では、米海軍厚木基地に物資輸送を要請。アルファ米3,000食とパンの缶詰約2,400食分を、ヘリコプター部隊が空輸してくれました。友好都市の北海道札幌市白石区からは寄付金や小学生が書いた応援メッセージが届きました。



②



③



④



⑤

①②応援協定を結ぶ登別市・海老名市からの支援物資が厚木基地のヘリコプターで届く（3月12日14時20分） ③海老名市の金井憲明副市長が来庁（4月12日13時52分） ④海老名市からの支援物資の荷下ろし作業（3月14日23時10分） ⑤上田市からの支援物資の荷下ろし作業（3月18日16時35分）

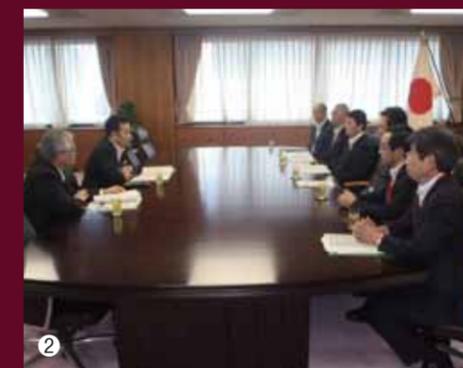
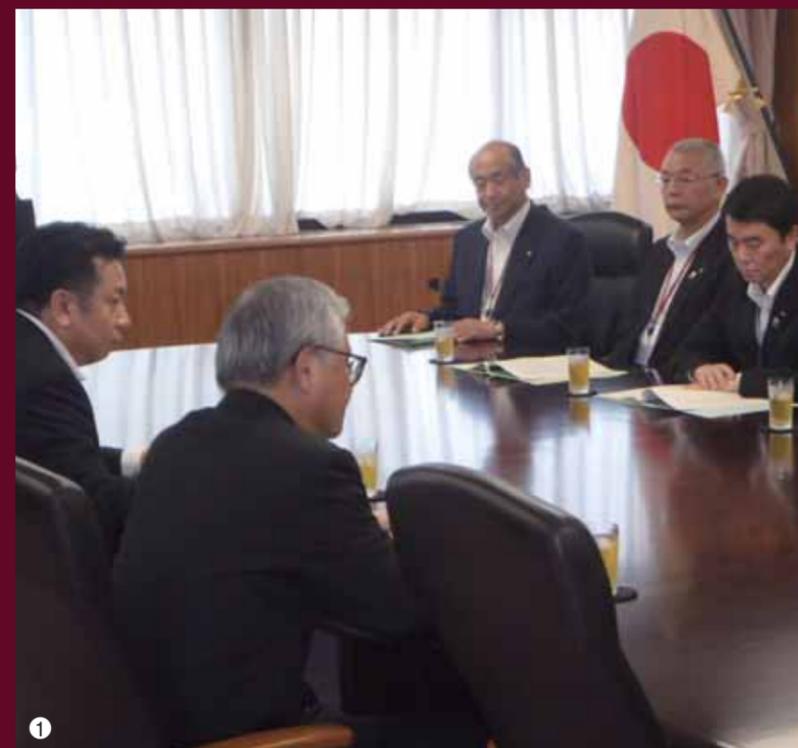
除染

原子力発電所事故の被害への対応

本市は東京電力福島第一原子力発電所から半径60～70km圏内に位置することから、空間放射線量を計測。市内各地の空間放射線量や農産物などの監視測定体制を強化しました。



①越河小学校に設置されたモニタリングポスト ②空間放射線量の測定 ③食品などの放射能測定 ④敷地平均の空間放射線量が毎時0.23マイクロシーベルト未満のため国の財政支援を受けられない保育園や幼稚園、小中学校の除染を市独自で実施。白石第一小で実証実験 ⑤放射性セシウム吸収抑制のため塩化カリウムを水田に散布 ⑥越河公民館で開催した「除染に関する住民説明会」(平成24年3月22日)



風評

信頼回復への取り組み

福島第一原発事故による放射性物質の飛散は、目に見えない放射能汚染と風評被害をもたらし、商工業・農林業・観光業など産業全般にわたり甚大な被害を及ぼしました。

本市は、平成23年11月に「放射能対策室」を設置するとともに、「放射線測定器」の貸し出しを開始。12月には、食に関する安心を確保するために「食品等放射能測定システム」を導入し、自家用の農産物などの放射能の測定を開始しました。また同年12月28日には、国から「汚染状況重点調査地域」の指定を受け、国が示したガイドラインに沿って「白石市除染実施計画」を策定。平成24年4月から、子ども空間を最優先に本格的に除染を進めています。



①宮城県市長会として国に要望書を提出(平成24年9月14日) ②小松日出夫東京電力(株)東北補償相談センター所長に要望書を手渡す保科惣一郎議長(平成24年8月2日) ③小松所長に白石の状況を強く訴える風間市長(平成24年8月29日)

復旧

災害に強い新しい街づくり



震災から立ち上がるために、本市では被害の復旧に向けて、一歩ずつ歩み始めました。まずは生活用水である水道の復旧に努め、市内の水道業者の協力を得て修理を急ぎ、平成23年3月28日に市内全域で復旧しました。

市の象徴である白石城も、三階櫓と大手二ノ門の内外壁の漆喰がはがれ落ちたり、大きな亀裂が入ったりするなどの大きな被害を受けました。壁の補修、瓦の補修、木軸組の補修などを経て、復旧をめざしました。



- ①②白石城の復旧工事
- ③市道寺前線の災害査定
- ④⑤仙南広域水道の送水管の破損修理作業



復興

市民の絆を、未来の力に…

東日本大震災からの被災者の一日も早い生活の再生と地域産業の再建を図り、早期に震災前の活力を回復させ、市民が安全で快適に過ごせるまちづくりを推進するため、平成23年9月30日に「白石市東日本大震災復興計画」を策定しました。

「がんばっぺ 白石」のスローガンを旗印に市民がひとつになって未来に向けて歩み始めています。



- ①白石市民春まつり「しろいし大行列」
- ②(株)旭プロダクションから寄贈された「がんばっぺ 白石」のイラスト